【資料第４－３号】

高田老松町会推進地区意見書（大塚署）

高田老松町会地区は、かつては大名屋敷が置かれた由緒ある地であり、現在では住宅街を中心としつつも、肥後細川庭園や目白台運動公園、日本女子大学などがエリア内に存在し、文化的・教育的価値も高く、地域住民以外の人も多く往来する地域です。

中央付近には目白通りが通っており一定の交通量がありますが、通りを一本入ると閑静な住宅街となっているため、夜間は人通りが非常に少なくなっています。

この地域に特化した犯罪や交通事故等の発生はないものの、当署管内で入電する１１０番通報は増加傾向にあり、その内容も多岐にわたっており、事案処理に向けた防犯カメラの調査活動も増えています。

また、特殊詐欺に関しては、近年被害額が増大しており、認知する予兆電話（いわゆる「アポ電」）の中には、「受け子」と呼ばれる犯人が被害者宅に現金やキャッシュカードを受け取りに行く手交型のアポ電の入電も多数あり、加えて、都内各地でアポ電を端緒とした強盗事件が発生していることから、日頃から詐欺グループの犯人が当署管内を徘徊している蓋然性が高く、犯人を検挙した場合には防犯カメラによる捜査には必要不可欠となります。

以上の防犯カメラの必要性のほか、設置による犯罪抑止効果も見込めることから、高田老松町会の推進地区の指定について、大塚署からもよろしくお願いいたします。